岩出市 地域おこし協力隊

手引き概要版（観光分野）

— 初めての導入に向けた共通理解のために —

※本資料は「岩出市地域おこし協力隊手引書（観光分野）」の要点を整理したものです。

対象：行政職員／協力隊／地域団体・住民

1. 地域おこし協力隊とは（制度の全体像）

「移住して地域に入り、一定期間“地域協力活動”を行いながら、定住・定着を目指す」

制度の流れ（イメージ）

都市部など
→ 移住
住民票を活動地域へ
生活の拠点を移す

→

地域協力活動
地域ブランド・情報発信
企画運営／関係づくり
課題解決・魅力づくり

→

任期後の姿
定住・起業・就業
関係人口として継続

押さえるポイント

・任期は概ね1～3年（自治体の委嘱・任用形態により異なる）
・岩出市では「会計年度任用職員」として任用（服務規律・情報管理などのルールあり）
・目的は“人手補完”ではなく、地域の魅力づくり・課題解決を通じた定住・定着

※詳細は手引き本編「制度の概要」「任用形態と待遇」を参照

2. 岩出市で導入する背景・ねらい

「観光（駅前エリア・案内機能）を起点に、交流人口の拡大と未来づくりを加速」

背景（手引書より）

・人口構造の変化／地域コミュニティの希薄化
・観光資源の認知度不足
・駅前エリア活性化、観光案内機能の強化が重要
・地域資源を生かした交流人口の拡大が必要

ねらい（岩出市の方針）

・市の将来像「活力あふれるまち・ふれあいのまち」へ
・都市部の多様な経験を持つ人材を迎え入れる
・地域課題の解決／魅力づくりを“共に”進める
・任期後の定着（定住・起業・就業）も見据える

キーワード

・観光×駅前（案内機能の強化）
・交流人口の拡大
・触媒人材（見つける→磨く→発信／つなぎ役）

・三者協働（行政×地域×隊員）
・運用の質（伴走／会議体／ふり返り）
・任期後も見据えた定着（定住・起業・就業）

出典：手引書「制度導入の背景」「期待する役割」

3. 岩出市が協力隊に期待する役割（触媒人材）

「単なる労働力ではなく、既存資源を活かしながら、人と人をつなぎ、関係性の“反応”を起こす人材」

3つの期待（要点）

① 見つける・磨く・発信

地域の魅力を再発見し、
伝わる形に磨き、
継続的に発信する。

② つなぎ役

市民・事業者・行政を
つなぎ、協働を生む。
“橋渡し”の役割。

③ 価値・仕組みづくり

新しい視点で試し、
学び、改善して、
地域に残る形へ。

重要な前提

・協力隊制度の目的は、人手不足の補完ではなく「地域の未来づくり」。
・協力隊は地域に新しい視点をもたらし、地域は活動の場をつくり、行政は橋渡しをする。
・三者が協働することで、地域の変化が加速する。

出典：手引書「期待する役割」「三者でつくる未来」

4. 活動領域とミッション設計（観光分野）

「上位計画と整合・強み活用・具体化（KPI）・初期3か月で微調整・年度更新」

ミッション設計の4原則（手引書より）

① 市の政策との整合（総合計画／観光ビジョン／駅前活性化 等）
② 隊員の強み・スキルを尊重（「その人だからできる」領域）
③ 無理なく成果が見える範囲に具体化（KPIで測れる）
④ 初期3か月で調整 → 年度ごとにKPIと目標を更新

具体化の例（手引書の例示）

例：ミッションの言い換え

×「観光振興」
○「駅前観光案内所を活用した情報発信力の強化」

（例）SNS投稿数／閲覧数、回遊促進の企画数、
観光案内の改善提案・実装数 など

任用形態（岩出市）

会計年度任用職員として活動。
服務規律・勤務管理・
情報管理のルールを
前提に、柔軟に調整。

出典：手引書「ミッション設計」「伴走支援」

5. 三者協働の体制（行政×地域×隊員）

「過度に依存せず・遠すぎず」バランスよく関わる

役割分担（要点）

行政（市役所）

・制度運用（勤務管理／服務規律）
・伴走支援（週次→月次→四半期）
・地域調整／橋渡し
・危機管理（トラブル・情報管理）
・任期後支援（定住・起業・就業）

協力隊（隊員）

・地域協力活動の企画／実行／改善
・魅力の発見→磨き→発信
・関係づくり（市民・事業者・行政）
・活動の記録／ふり返り
・迷ったら相談（抱え込まない）

地域（団体・住民）

・活動の場づくり／紹介
・情報提供／関係支援
・成果の社会実装（継続運用）
・過度な依頼を避ける（便利屋化防止）
・困ったときは行政へつなぐ

大事な距離感（共通ルール）

・過度に依存せず／遠すぎず　・役割と線引きを“事前に合意”　・違和感は小さいうちに共有（早期相談）

出典：手引書「三者の役割整理」

6. 着任〜3か月：スタートアップ（伴走期間）

初期3か月は「理解 → 具体化 → 定期面談」で“迷子”を防ぐ

3ステップ（手引書の整理）

① 地域・関係者の理解

関係部署／観光協会・商工会
地域リーダー・店舗・事業者

② ミッションの具体化

強みの棚卸し
市の優先度とすり合わせ
1年目の活動計画づくり

③ 定期面談（伴走）

週次：振り返り
月次：レビュー（課題・改善）
必要に応じミッション調整

ここを押さえると離脱リスクが下がる

・孤立／方向性の不一致／相談しにくさが、つまずきの主因になりやすい。
・行政側の“伴走”で、多くの問題は予防できる（早期に拾い、整える）。

出典：手引書「着任後3か月」「伴走支援の方法」

7. 運用の基本：会議体とふり返り（週次／月次／四半期）

会議体を「3階層」で回し、活動の質と安全を担保する

会議体（3階層）

週次ミーティング

対象：担当課 × 協力隊

1週間の活動共有／課題・懸念の確認／翌週計画調整
（小さな違和感の吸い上げ）

月次レビュー

対象：課内＋関係部署

活動実績（KPI）の振り返り／ミッション整合性
課題の深掘り／支援体制の検討

四半期レビュー

対象：庁内の上位レベル

3か月ごとの総点検／ミッション見直し要否
来年度以降の方向性協議／外部伴走の助言共有

出典：手引書「運用ルール・管理体制（会議体の構造）」

8. 守るべき線引き・情報発信（SNS）

「便利屋化・ハラスメント・情報管理」を予防し、安心して挑戦できる環境へ

線引き（やらない／やらせない）

- ミッション外の依頼が常態化しないよう、OK/NGを合意する
- 夜間・休日行事が多い前提で、休む日も“制度的に”確保する
- 「全部参加」は持続しない：線引きで継続力を上げる
- ハラスメントや過度な拘束は、行政が早期に介入・調整する

実践フレーズ例

「週に◯日は夜の会合OK」
「この曜日は“自分優先デー”】【
迷ったら週次で相談】

情報管理・発信（SNS）

- SNS・広報発信はルールに沿って実施（迷ったら事前相談）
- 個人情報／機密情報の取り扱いを徹底（撮影・掲載は同意を得る）
- 炎上を避ける：断定・攻撃的表現を避け、事実と配慮を優先
- 広報担当や観光協会等と連携し、発信の質を上げる

RACI（例）

SNS・広報：R＝協力隊／C＝広報担当・観光協会
トラブル対応：A＝担当課長／R＝担当係長 など

出典：手引書「行政として守るべき線引き」「情報管理・SNSルール（RACI）」

9. 困ったときの相談・次の一歩

「迷ったら早めに共有」— 誤解や摩擦の芽を小さいうちに拾う

相談の基本フロー（概要）

まずは共有
隊員 ↔ 担当職員
（週次で即時相談）

→

整理・調整
担当課内／関係部署
（月次で体制検討）

→

重大事案
課長・総務・人事
必要に応じ外部伴走